

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:総務常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
1	避難所の備品、備蓄品の整備状況について聞きたい。	<p>担当部局(総務部)に確認し、「避難所開設時に必要となるマスクや手指消毒液、体温計、短期間の避難で活用するアルミブランケット、アルミマット、停電対策としてガス発電機やLED投光器を全ての指定避難所に配備している。また、大規模災害により長期間の避難生活が余儀なくされる場合に備えて、毛布や簡易ベッド、間仕切りパーテーション、アルファ米、飲料水、粉ミルク、紙おむつ、生理用品等をホルトホール大分及び市内小中学校64箇所に分散備蓄している。なお、アルファ米、粉ミルク等については、アレルギー対応のものも準備している。」との回答を受けました。</p>
2	避難所の指定や運営に対する考え方を聞きたい。	<p>担当部局(総務部)に確認し、「本市の指定避難所については、災害対策基本法をもとに本市地域防災計画において、災害に対して安全な公共施設で、原則100人以上避難可能であり、給食設備を有するか比較的容易に搬送給食をなし得る場所などを対象として、指定することとしている。また、避難所の運営については、風水害等で短期間指定緊急避難場所を開設する場合には、原則市職員が開設及び受付等を行う。加えて、大規模災害時など、長期にわたり避難所生活を余儀なくされる場合には、本市の避難所運営マニュアルに基づき、避難所ごとに自主防災組織の役員や防災士などが中心となり、避難者で組織する避難所運営委員会を設置し、自主運営を行っていただくことを基本としている。」との回答を受けました。</p>
3	市が行う行政評価において、毎年度公表する評価結果については市民により分かりやすいものとなるよう努めるとともに、評価手法についても常に見直しを行いながら時代に即した的確な実施に努めるべきであると考えているが、見解を聞きたい。	<p>担当部局(企画部)から「行政評価における評価結果については、分かりやすい形でお伝えできるようにするため、市民の視点に立って議論を行っていただく外部評価の場などでの丁寧な説明に努めてきたところであるが、今後も、市民の関心が深い事業や重要度の高い施策などを中心に説明責任の徹底を図っていくとともに、市民の満足度をより的確に測ることができるような評価指標の設定を検討するなど、評価自体を明確化するよう工夫を重ねていきたいと考えている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、市民にとって、より分かりやすいものになるよう今後の取組を注視していきます。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:総務常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
4	テニスコートや河川敷グラウンドなど、本市のスポーツ施設の改修や補修に関する今後の方針を聞きたい。	<p>担当部局(企画部)から「テニスコートについては、駄原総合運動公園テニスコートの老朽化に伴い、令和4・5年度に改修設計、令和5・6年度に改修工事を行うように計画している。その他のテニスコートについても随時補修等を行い、施設の維持管理を行っていきたいと考えている。各河川敷グラウンドについては、災害等により利用者等に重大な危険、または支障があると認められる場合、応急処置として補修等を行うこととしている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、今後の取組を注視していきます。</p>
5	総合型地域スポーツクラブについて、運営補助の対象期間を終えた後においても、何らかの支援を行えないか聞きたい。	<p>担当部局(企画部)から「本市は、総合型地域スポーツクラブに対し、設立準備から最長12年間、安定した運営や自立を目的とした財政的な支援を行っている。また、クラブの活動に充当可能な『あなたが支える市民活動応援事業』や、totoのスポーツ活動推進事業助成金などの補助制度の紹介を行っているところである。さらに、クラブの趣旨や活動等を市報や市ホームページに掲載し、周知を図るとともに、多くの人が集まるイベントの機会を捉え、クラブに対し情報発信や物販のためのブース出展の機会を提供し、会員確保や財源確保の取組を支援してきている。今後も各クラブとの意見交換や定期的なアンケート調査を通じ、クラブが抱える課題の把握に努めながら、継続的な支援を行っていきたいと考えている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、総合型地域スポーツクラブの安定した運営や自立は重要と考えることから、引き続き継続的な支援を行うよう求めていきます。</p>
6	大分市生き粋スポーツ振興補助金について、要件を緩和することや分かりやすい広報に努めることが必要だと考えるが、見解を聞きたい。	<p>担当部局(企画部)から「大分市生き粋スポーツ振興補助金は、元気都市大分の創造を目指し、大分市を代表して全国規模のスポーツ大会に参加する市内の高等学校や事業者、地域を単位として構成されるチームの旅費に対する補助制度である。こうしたスポーツ大会への出場に対する補助は、選手の競技力の向上や、市民の健康づくりに寄与するものであると考えており、今回いただいた提言に沿って、市内の地域を単位として構成されるチームについて、構成員の8割以上の要件を撤廃していきたいと考えている。また、スポーツ振興補助金については、市ホームページだけでなく、市報おおいた4月1日号への掲載を行うなど、今後も分かりやすい広報に努めていきたいと考えている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、今後の取組を注視するとともに、市民に対し分かりやすい広報を行うよう求めていきます。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:総務常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
7	<p>自治委員名簿等の書類や自治委員との連絡手段について、デジタル化する必要があると考えるが、見解を聞きたい。 また、個人情報の管理についての考え方を聞きたい。</p>	<p>担当部局(市民部)から「自治委員宛て文書は基本的には郵送となるが、要望があれば各課が個別に電子メールでやりとりを行っている。また、令和4年8月には自治委員への災害情報の伝達を迅速に行うため、これまで電話連絡のみで対応していたものを携帯電話のメール機能で行えるよう改善したところである。今後も自治委員業務の効率化や負担軽減を図るため、デジタル化に取り組んでいきたいと考えている。 個人情報である自治委員名簿については、行政目的や公共性のある活動に利用されると認められる場合に限り、目的以外に利用しないよう注意事項を記した文書を添えて提供している。今後も自治委員の個人情報については、適正な管理に努めていく。」との回答がありました。 本委員会としても、デジタル化による自治委員の負担軽減を求めるとともに、自治委員の個人情報について適正な管理を求めています。</p>
8	<p>子供の地域での活動に対する支援についての考え方を聞きたい。</p>	<p>担当部局(市民部)から「本市では、多世代交流をはじめ様々な自治会等の活動に対して、『ご近所の底力再生事業』や『地域づくり交付金事業』などを通して支援を行っており、多くの自治会等にこれらの助成金等を活用していただいているところである。子どもの地域での活動等にこれらの制度の活用を検討される場合は、市民協働推進課または最寄りの支所にご相談していただきたい」との回答がありました。 本委員会としても、今後の取組を注視していくとともに、新型コロナウイルス感染症によって疲弊した活動に対する支援が充実するよう求めています。</p>
9	<p>少子化への対策について、結婚支援が必要だと考えるが、取組を聞きたい。</p>	<p>担当部局(市民部)から「本市では、男女共同参画センター『たびねす』において、平成27年度から『ときめき出会いサポート事業』を実施している。これは、若者の未婚化・晩婚化が進む中、婚活におけるコミュニケーションやマナー等のスキルアップ、結婚を踏まえたライフデザインなどをセミナーで学んでいただき、結婚観や家族観についての意識改革を図るとともに、出会いの場となるイベントを開催することで結婚を希望する20歳以上の独身男女の婚活を支援する事業である。事業実施に当たっては、婚活や結婚について学んでもらうことが重要であることから、イベントに参加するにはセミナー受講を条件としており、これまで男女各20名に参加していただき、ホテルでの立食パーティーやバスツアーなどのイベントなどを開催した。なお、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、対面セミナーに参加できない方向けにWEB形式によるセミナーを実施したほか、男女各10名という少人数形式のイベント開催など、取組を工夫しているところである。」との回答がありました。 本委員会としても、今後の取組を注視していきます。</p>

市民意見交換会にかかる意見・質問及び回答(令和5年4月末時点)

委員会名:総務常任委員会

番号	委員会等で整理した市民からの意見・質問等	意見・質問等への対応(執行部からの回答内容を含む)
10	大分市葬斎場に通称や愛称などを付けることについて、見解を聞きたい。	<p>担当部局(市民部)から「大分市葬斎場は市民福祉の向上を図るために、昭和62年10月に開設した火葬場と斎場を兼ね備えた施設であり、開設当時より幅広い市民の皆様へ分かりやすい名称とするため、『大分市葬斎場』と名称を付けている。現在、開設以来35年が経過し、大分市、由布市挾間町にて広く慣れ親しんだ名称であると認識している。」との回答を受けました。</p>
11	消防団員のなり手不足を解消するための取組について聞きたい。	<p>担当部局(消防局)から「消防団員の確保については、地域に親しまれ、活力ある消防団を目指す『大分市消防団ビジョン』を令和元年に策定し、年額報酬や出動報酬の見直しなど処遇改善を行った。また併せて、活動しやすい環境づくりや市民に身近な組織となるよう努めている。具体的には、消防団への入団を促すためには、消防団の役割やその活動に対して理解を得ることが重要なことから、消防団の必要性等をわかりやすく伝える広報誌『MATOIOITA』の閲覧や、消防団活動をPRするための動画の公開などの広報活動、及び女性消防団体験会などを行っている。さらに今年度は、女性消防団員が幼少期の防火防災意識の啓発を行う『わくわく消防教室』にて実施する防災紙芝居を一新し、大分市オリジナルの紙芝居を作成しました。今後、女性団員のやりがいをもっと高め、消防団の認知度向上に取り組むこととしている。また、若年層をはじめとした市民に対し、消防団が、より身近な存在であると認識してもらうため、大分市消防団のWEBサイトを作成し、公開を開始したところである。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、今後の消防団員のなり手不足解消に向けた取組が充実するよう求めています。</p>
12	若者の投票率を向上させるための取組について聞きたい。	<p>担当部局(選挙管理委員会事務局)から「18歳を迎える新有権者に、バースデーカードと選挙ハンドブック等を郵送し、投票の棄権防止と有権者としての意識の高揚を図っている。また、大分県選挙管理委員会と連携して、小中学校・高等学校・専門学校・大学等で選挙講座や模擬投票などの出前授業を実施したり、選挙時に使用する投票箱や記載台等の貸出しを行うことで選挙への関心を高め、投票参加意識の醸成を図っている。さらに、市が主催するイベント等で若者や親子連れに啓発物品を配布するとともに、啓発活動には選挙サポーターに登録している大学生に参加してもらうなど、選挙意識の高揚を図っている。」との回答がありました。</p> <p>本委員会としても、今後の取組を注視していきます。</p>